

冬季休業明けの校長講話 —薩摩藩の教育—

2018年1月5日（金）の放送による校長講話を掲載します。

◆2018年1月5日の放送による校長講話◆ テーマ：「薩摩藩の教育」

- 皆さんは、「薩摩チルドレン」の話を知っていますか。1865年、慶応元年に、日本を出国しイギリスに渡った15名の留学生のことです。中には**当時13歳の長沢鼎（ながさわかなえ）**もいました。彼らは、それぞれが積極的な留学体験をし、その後の活躍につなげました。広く世界を見ることで西洋文化に関する考え方も大きく変わったようです。
- その15名の内、現在、高校の日本史の教科書に登場している人物が**3名**もいます。
- 1人目は**森有礼（もりありのり）**です。当時17歳でイギリスに渡った森は、さらにアメリカに渡って学び、3年後の1868年に帰国し、明治政府で活躍します。そして、**1885年には初代文部大臣**になりました。2人目は**寺島宗則（てらしまむねのり）**です。当時32歳だった寺島は、イギリス外務省との外交交渉にあたりました。その経験がのちに、外務卿として**条約改正**にあたることにつながりました。3人目は**五代友厚（ごだいともあつ）**です。2015年後期の朝の連続テレビ小説「あさが来た」でディーン・フジオカさんが演じて話題になった実業家の五代友厚です。実は五代が、このイギリスへの学生留学の提案者でした。
- 私は、幕末から明治初期の若者たちが大好きです。それは、彼らが学ぶことに**極めて真剣**だったからです。**自らの身を立てる**ため、新しい時代をつくるために、彼らは必死に欧米に学んでいました。そしてその学びが、日本を**近代国家**に導いてくれました。
- 特に、薩摩藩からは明治維新をリードする人材がたくさん育ちました。私は、その秘密の一つが「教育システム」にあったと思っています。薩摩藩では、武士の子供たちに「**郷中（ごじゅう）教育**」という独特の教育が行なわれていました。
- これは、鹿児島城下の**36の町単位**に6歳から15歳くらいの少年が集まり、そこに15歳以上の先輩がついて行なう**縦割りの学びのシステム**でした。分からないことを先輩に聞き、先輩は後輩にそれを必死に教えました。教える本人は復習になるし、知識を皆で効率よく共有できるシステムでした。そしてその日の最後に「**今日は何を学んだか**」を各自が口頭で発表したり、ちゃんと理解してるかを仲間同士でチェックし合ったりしたそうです。ものすごい**対話重視の学びのシステム**ですね。
- また、郷中教育で重視されたのが「**詮議（せんぎ）**」という方法でした。これは、簡単には答えが出ないような状況をいろいろ**仮想**して、その解決策を皆で考え合う訓練方法でした。
- もうわかりましたね。そうです薩摩藩の「郷中（ごじゅう）教育」は、まさに今日の「**アクティブ・ラーニング**」そのものだったのです。
- その教育システムの中から、最初に話した「薩摩チルドレン」や**西郷隆盛、大久保利通、大山巖、東郷平八郎**も生まれたのです。そして、驚くべきことに今あげた4名は、同じ「**下加治屋町（したかじやちょう）の郷中**」でした。つまりご近所だったのです。
- 今年のNHK大河ドラマは西郷隆盛が主役の「**西郷どん（せごどん）**」です。初回は1月7日です。きっと、第1回で「**郷中教育**」も描かれると思います。よかったら見てください。
- NHKといえば、本校が登場する「あさイチ」まで、**あと5日**です。特集のタイトルは「**子どもの授業が激変！？ 2018教育改革最前線**」に決まりました。**1月10日（水）8時15分～9時54分**の中で、本校の取組については、約5分間の紹介になる予定です。皆さん、テレビ録画の予約は済みましたか。果たして誰が映るのか、ワクワクしますね。
- それでは、2018年が皆さん全員にとって**幸せな1年**になりますことを願って終わりとします。最後にもう一言、**6年次生、健闘を心から祈っています**。最後の最後まで、粘り強く頑張ってください。みんなで応援しています。
- 私の今日の話は以上です。ありがとうございました。

